

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号  
特許第7262306号  
(P7262306)

(45)発行日 令和5年4月21日(2023.4.21)

(24)登録日 令和5年4月13日(2023.4.13)

|                         |                     |
|-------------------------|---------------------|
| (51)国際特許分類              | F I                 |
| B 6 5 D 47/12 (2006.01) | B 6 5 D 47/12 2 0 0 |
| B 6 5 D 51/22 (2006.01) | B 6 5 D 51/22 1 1 0 |
| B 6 5 D 41/34 (2006.01) | B 6 5 D 41/34       |

請求項の数 4 (全10頁)

|          |                               |          |                    |
|----------|-------------------------------|----------|--------------------|
| (21)出願番号 | 特願2019-100887(P2019-100887)   | (73)特許権者 | 000006909          |
| (22)出願日  | 令和1年5月30日(2019.5.30)          |          | 株式会社吉野工業所          |
| (65)公開番号 | 特開2020-193027(P2020-193027 A) | (74)代理人  | 100106909          |
|          |                               |          | 弁理士 棚井 澄雄          |
| (43)公開日  | 令和2年12月3日(2020.12.3)          | (74)代理人  | 鈴木 三義              |
| 審査請求日    | 令和3年12月1日(2021.12.1)          | (74)代理人  | 100140718          |
|          |                               |          | 弁理士 仁内 宏紀          |
|          |                               | (72)発明者  | 早川 茂               |
|          |                               |          | 東京都江東区大島3丁目2番6号 株式 |
|          |                               |          | 会社吉野工業所内           |
|          |                               | 審査官      | 家城 雅美              |

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 キャップ

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

容器本体の口部に装着される有頂筒状のキャップ本体と、  
前記キャップ本体の天壁部を開閉する有頂筒状の蓋体と、を備え、  
前記キャップ本体は、  
内容物の注出孔が形成された天壁部と、  
前記口部に固定される固定筒と、  
前記固定筒を径方向の外側から囲い、かつ破断可能な第1弱化部を介して前記固定筒に  
連結された視認リングと、を備え、  
前記蓋体は、  
前記キャップ本体に着脱可能に螺着されたねじ筒と、  
前記ねじ筒を径方向の外側から囲い、かつ前記固定筒の外周面と前記視認リングの内周  
面との間に差し込まれた差込筒と、を備え、  
前記視認リングの内周面、および前記差込筒の外周面のうちのいずれか一方に、他方に  
形成された係止凹部に挿入された係止凸部が形成され、  
前記キャップ本体に対して前記ねじ筒が緩む周方向の緩み側に、前記蓋体を移動したと  
きに、前記係止凸部が、前記係止凹部の内面のうちの周方向の端面に当接する、キャップ。

【請求項2】

前記係止凸部は、前記差込筒の外周面に形成され、前記係止凹部は、前記視認リングに  
形成された径方向に貫く貫通孔となっている、請求項1に記載のキャップ。

## 【請求項 3】

前記係止凹部の内面のうち、上端に位置して下方を向く上面は、前記係止凸部の上面に係止可能に形成されている、請求項 1 または 2 に記載のキャップ。

## 【請求項 4】

前記キャップ本体は、前記天壁部に破断可能な第 2 弱化部を介して連結され、かつ前記注出孔を閉塞する中栓を備え、

前記蓋体は、前記中栓を保持し、前記中栓の周方向の回転移動、および下方移動を規制した保持部を備える、請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載のキャップ。

## 【発明の詳細な説明】

## 【技術分野】

10

## 【0001】

本発明は、キャップに関するものである。

## 【背景技術】

## 【0002】

従来から、例えば下記特許文献 1 に示されるような、容器本体の口部に装着される有頂筒状のキャップ本体と、キャップ本体の天壁部を開閉する有頂筒状の蓋体と、を備え、キャップ本体が、内容物の注出孔が形成された天壁部と、口部に固定される固定筒と、を備え、蓋体が、キャップ本体に着脱可能に螺着されたねじ筒を備えたキャップが知られている。

## 【先行技術文献】

20

## 【特許文献】

## 【0003】

## 【文献】特開 2015-163525 号公報

## 【発明の概要】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0004】

しかしながら、前記従来のキャップでは、蓋体をキャップ本体から一度も取り外したことが無い未開封の状態と、蓋体をキャップ本体から取り外した後、再度、蓋体をキャップ本体に装着した状態と、を外観で見分けることができないという問題があった。

## 【0005】

30

本発明は、このような事情を考慮してなされたもので、未開封状態であるか否かを確実に判別することができるキャップを提供することを目的とする。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0006】

上記課題を解決して、このような目的を達成するために、本発明のキャップは、容器本体の口部に装着される有頂筒状のキャップ本体と、前記キャップ本体の天壁部を開閉する有頂筒状の蓋体と、を備え、前記キャップ本体は、内容物の注出孔が形成された天壁部と、前記口部に固定される固定筒と、前記固定筒を径方向の外側から囲い、かつ破断可能な第 1 弱化部を介して前記固定筒に連結された視認リングと、を備え、前記蓋体は、前記キャップ本体に着脱可能に螺着されたねじ筒と、前記ねじ筒を径方向の外側から囲い、かつ前記固定筒の外周面と前記視認リングの内周面との間に差し込まれた差込筒と、を備え、前記視認リングの内周面、および前記差込筒の外周面のうちのいずれか一方に、他方に形成された係止凹部に挿入された係止凸部が形成され、前記キャップ本体に対して前記ねじ筒が緩む周方向の緩み側に、前記蓋体を移動したときに、前記係止凸部が、前記係止凹部の内面のうちの周方向の端面に当接する。

40

## 【0007】

この発明によれば、キャップ本体に対してねじ筒が緩む周方向の緩み側に、蓋体を移動したときに、係止凸部が、係止凹部の内面のうちの周方向の端面に当接するので、蓋体に加えた周方向の力が、係止凸部、および係止凹部の内面を介して視認リングに伝わることで、視認リングと固定筒とを連結している第 1 弱化部が周方向に引張されて破断すること

50

となり、視認リングが固定筒に対して分離される。これにより、未開封状態と比べて、視認リングが下方に位置するか、除去されることとなり、未開封状態と、蓋体をキャップ本体から取り外した後、再度、蓋体をキャップ本体に装着した状態（以下、リキャップ状態という）と、を外観で容易に見分けることが可能になり、未開封状態であるか否かを確実に判別することができる。

【０００８】

ここで、前記係止凸部は、前記差込筒の外周面に形成され、前記係止凹部は、前記視認リングに形成された径方向に貫く貫通孔となってもよい。

【０００９】

この場合、係止凹部が、視認リングに形成された径方向に貫く貫通孔となっているので、係止凹部を有する視認リングを容易に形成することができる。

10

係止凹部の内面のうち、上端に位置して下方を向く上面が、係止凸部の上面より上方に位置していて、第１弱化部が破断され、視認リングが固定筒に対して下降したときに、係止凹部の上面が、係止凸部の上面に係止される場合には、未開封状態と比べて、視認リングが下方に位置するだけでなく、係止凹部が係止凸部に対して下降することとなり、リキャップ状態の外観を、未開封状態の外観と比べて確実に異ならせることができる。

【００１０】

また、前記係止凹部の内面のうち、上端に位置して下方を向く上面は、前記係止凸部の上面に係止可能に形成されてもよい。

【００１１】

20

この場合、係止凹部の上面が、係止凸部の上面に係止可能に形成されているので、第１弱化部が破断され、視認リングが固定筒に対して下降したときに、係止凹部の上面が、係止凸部の上面に係止されることとなり、視認リングを脱落させず、係止凸部に留めておくことができる。

【００１２】

また、前記キャップ本体は、前記天壁部に破断可能な第２弱化部を介して連結され、かつ前記注出孔を閉塞する中栓を備え、前記蓋体は、前記中栓を保持し、前記中栓の周方向の回転移動、および下方移動を規制した保持部を備えてもよい。

【００１３】

この場合、キャップ本体が中栓を備え、蓋体が保持部を備えるので、キャップ本体に対してねじ筒が緩む周方向の緩み側に、蓋体を移動すると、中栓も蓋体と同様に移動させられて、第２弱化部が破断され注出孔が開放される。その後も、中栓は保持部に保持された状態に保たれる。

30

このように、蓋体をキャップ本体から取り外すだけで、第２弱化部が破断され注出孔が開放されるので、未開封状態とリキャップ状態とを外観で容易に見分けることができる効果が顕著に奏功される。

【発明の効果】

【００１４】

本発明によれば、未開封状態であるか否かを確実に判別することができる。

【図面の簡単な説明】

40

【００１５】

【図１】本発明に係る一実施形態として示したキャップの縦断面図である。

【図２】図１に示すキャップを径方向の外側から見た側面図である。

【図３】図１に示すキャップにおいて開封状態を示す図である。

【図４】図１に示すキャップにおいてリキャップ状態を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【００１６】

以下、図面を参照し、本発明の一実施形態に係るキャップ１について説明する。

本実施形態のキャップ１は、図１から図４に示されるように、容器本体Ｗの口部Ｗ１に装着される有頂筒状のキャップ本体１１と、キャップ本体１１の天壁部１２を開閉する有

50

頂筒状の蓋体 1 3 と、を備えている。

キャップ本体 1 1、および蓋体 1 3 は、共通軸と同軸に配設されている。以下、この共通軸をキャップ軸 O といい、キャップ軸 O に沿って、蓋体 1 3 の頂壁部 3 5 側を上側といい、キャップ本体 1 1 の周壁部 3 6 の開放端側を下側という。上下方向から見て、キャップ軸 O に交差する方向を径方向といい、キャップ軸 O 回りに周回する方向を周方向という。  
【0017】

キャップ本体 1 1 の周壁部 3 6 は、天壁部 1 2 の外周縁から下方に向けて延びている。周壁部 3 6 の下部は、容器本体 W の口部 W 1 内に密に嵌合されている。周壁部 3 6 の上部の外周面に雄ねじ部が形成されている。

天壁部 1 2 の上面に、上方に向けて突出した注出筒 2 5 が設けられている。注出筒 2 5 の内側は、天壁部 1 2 を上下方向に貫いており、注出筒 2 5 の内側が内容物の注出孔 1 4 となっている。注出筒 2 5 は、キャップ軸 O と同軸に配設されている。

【0018】

天壁部 1 2 の上面における外周部に、周方向の全長にわたって連続して延びるとともに、径方向の外側に向けて開口した窪み部 1 2 a が形成されている。窪み部 1 2 a の内面のうち、径方向の内端に位置して径方向の外側を向く周面に、径方向の外側に向けて突出した音出し突起 2 6 が形成されている。音出し突起 2 6 は、窪み部 1 2 a の内面のうち、上方を向く底面と一体に形成されている。音出し突起 2 6 は、天壁部 1 2 の上面における外周縁より径方向の内側に位置している。音出し突起 2 6 は、周方向に間隔をあけて複数設けられている。音出し突起 2 6 は、キャップ軸 O を中心に約 180° 間隔をあけて 2 つ設けられている。なお、音出し突起 2 6 の個数、および間隔は適宜変更してもよい。

【0019】

キャップ本体 1 1 は、天壁部 1 2 に破断可能な第 2 弱化部 2 3 を介して連結され、かつ注出孔 1 4 を閉塞する中栓 2 4 を備えている。中栓 2 4 は、注出孔 1 4 の内周面に第 2 弱化部 2 3 を介して連結されている。

中栓 2 4 は、有頂筒状に形成されている。中栓 2 4 は、キャップ軸 O と同軸に配設されている。中栓 2 4 の外周面の上部に、上下方向に延びる縦溝 2 4 b が周方向に間隔をあけて複数形成されている。縦溝 2 4 b は、中栓 2 4 の上端面に開口している。中栓 2 4 の外周面の下部に、径方向の外側に向けて突出した第 1 係止凸部 2 4 a が形成されている。

第 2 弱化部 2 3 は、中栓 2 4 の外周面、および注出孔 1 4 の内周面の各下端部同士を連結している。

【0020】

キャップ本体 1 1 は、口部 W 1 に固定される固定筒 1 5 と、固定筒 1 5 を径方向の外側から囲い、かつ破断可能な第 1 弱化部 1 6 を介して固定筒 1 5 に連結された視認リング 1 7 と、を備えている。

【0021】

固定筒 1 5 は、口部 W 1 の外周面にアンダーカット嵌合されて固定されている。図示の例では、固定筒 1 5 の下端部は、キャップ本体 1 1 の周壁部 3 6 の下端部より下方に位置している。なお、固定筒 1 5 の下端部は、キャップ本体 1 1 の周壁部 3 6 の下端部に対して、同じ上下方向の位置に位置してもよいし、上方に位置してもよい。キャップ本体 1 1 は、周壁部 3 6 における上下方向の中間部から径方向の外側に向けて突出したフランジ部 2 8 を備え、固定筒 1 5 は、フランジ部 2 8 における径方向の外端部から下方に向けて延びている。フランジ部 2 8 の下面は、口部 W 1 の上端開口縁に当接している。

【0022】

視認リング 1 7 は、キャップ軸 O と同軸に配設されている。視認リング 1 7 の上下方向の大きさは、固定筒 1 5 の上下方向の大きさと同じになっている。視認リング 1 7 の上下方向の位置は、固定筒 1 5 の上下方向の位置と同じになっている。

第 1 弱化部 1 6 は、視認リング 1 7 の内周面、および固定筒 1 5 の外周面の各下端部同士を連結している。

【0023】

10

20

30

40

50

蓋体 13 は、頂壁部 35、ねじ筒 18、差込筒 19、保持部 27、および音出し部 29 を備えている。

【0024】

保持部 27 は、中栓 24 を保持し、中栓 24 の周方向の回転移動、および下方移動を規制している。保持部 27 は、頂壁部 35 における径方向の中央部に設けられ、頂壁部 35 の下面から下方に向けて突出している。保持部 27 は筒状に形成され、キャップ軸 O と同軸に配設されている。

保持部 27 の内周面の上部に、径方向の内側に向けて突出し、上下方向に延びる縦リブ 27b が周方向に間隔をあけて複数形成されている。各縦リブ 27b は、中栓 24 に形成された複数の縦溝 24b に各別に嵌合されている。これにより、保持部 27 および中栓 24 の周方向の相対的な回転移動が規制されている。

保持部 27 の内周面の下部に、径方向の内側に向けて突出した第 2 係止凸部 27a が形成されている。第 2 係止凸部 27a は、中栓 24 の第 1 係止凸部 24a にアンダーカット嵌合されている。これにより、中栓 24 の保持部 27 に対する下方移動が規制されている。

保持部 27 は、注出孔 14 内に着脱可能に密に嵌合されている。保持部 27 の外周面の上部が、注出孔 14 内に嵌合されている。保持部 27 の上部は、保持部 27 の下部より肉厚に形成されている。

【0025】

音出し部 29 は、頂壁部 35 の下面に形成された剛体突部 35a から下方に向けて突出した弾性変形可能な柱状に形成されている。なお、頂壁部 35 の下面に剛体突起 35a を形成しなくてもよい。音出し部 29 の下端部は、キャップ本体 11 の窪み部 12a の底面に当接、若しくは近接している。

音出し部 29 の下端部は、キャップ本体 11 に対するねじ筒 18 の締め込みが完了する直前に、音出し突起 26 に弾性変形させられた状態で周方向に摺接し、キャップ本体 11 に対するねじ筒 18 の締め込みが完了したときに、音出し突起 26 を周方向に乗り越えるようになっている。この乗り越え時に、音出し部 29 が復元変形するのに伴って振動することで、音が発生する。

【0026】

ねじ筒 18 は、音出し部 29 より径方向の外側に設けられている。ねじ筒 18 は、キャップ本体 11 の周壁部 36 の雄ねじ部に着脱可能に螺着されている。

差込筒 19 は、ねじ筒 18 を径方向の外側から囲い、かつ固定筒 15 の外周面と視認リング 17 の内周面との間に差し込まれている。差込筒 19 は、蓋体 13 のなかで最も径方向の外側に位置する最外郭筒となっている。なお、差込筒 19 は、蓋体 13 の最外郭筒より径方向の内側に位置してもよい。

【0027】

そして、本実施形態では、視認リング 17 の内周面、および差込筒 19 の外周面のうちのいずれか一方に、他方に形成された係止凹部 21 に挿入された係止凸部 22 が形成されている。キャップ本体 11 に対してねじ筒 18 が緩む周方向の緩み側に、蓋体 13 を移動したときに、係止凸部 22 が、係止凹部 21 の内面のうちの周方向の端面 21a に当接する構成となっている。

係止凹部 21 および係止凸部 22 は、複数ずつ設けられている。なお、係止凹部 21 および係止凸部 22 は、1 つずつ設けられてもよい。

【0028】

係止凹部 21 は、視認リング 17 に形成された径方向に貫く貫通孔となっている。係止凹部 21 は、視認リング 17 のうち、下端部より上方に位置する部分に設けられている。係止凹部 21 は、視認リング 17 のうち、第 1 弱化部 16 に対して周方向に離れた部分に設けられている。なお、係止凹部 21 および第 1 弱化部 16 それぞれの周方向の位置を互いに同等にしてもよい。

【0029】

係止凹部 21 は、図 2 に示されるように、径方向の外側から見て周方向に長い長方形状

10

20

30

40

50

を呈する。係止凹部 2 1 の内面は、周方向の外端に位置して上下方向に延びる一対の端面 2 1 a と、上端に位置して下方を向く上面 2 1 b と、下端に位置して上方を向く下面 2 1 c と、を備えている。

なお、係止凹部 2 1 を径方向の外側から見た形状は、例えば円形状等であってもよい。係止凹部 2 1 は、視認リング 1 7 の内周面に形成された径方向に非貫通の窪みであってもよい。係止凹部 2 1 の内面は、下面 2 1 c を有さなくてもよい。

#### 【0030】

係止凸部 2 2 は、差込筒 1 9 の外周面のうち、固定筒 1 5 の外周面と視認リング 1 7 の内周面との間に差し込まれている下部に形成されている。係止凸部 2 2 は、差込筒 1 9 の外周面から径方向の外側に向けて突出し、周方向に長い直方体状に形成されている。なお、係止凸部 2 2 は、例えば立方体、若しくは半球体等であってもよい。

係止凸部 2 2 の表面は、上端に位置して上方を向く上面 2 2 a と、周方向の外端に位置して上下方向に延びる一対の端面 2 2 b と、下端に位置して下方を向く下面 2 2 c と、径方向の外端に位置して径方向の外側を向く外面 2 2 d と、を備えている。

#### 【0031】

図 1 に示されるように、係止凸部 2 2 の上面 2 2 a は、係止凹部 2 1 の上面 2 1 b と上下方向で対向しており、係止凹部 2 1 の上面 2 1 b が、係止凸部 2 2 の上面 2 2 a に係止可能となっている。係止凸部 2 2 の下面 2 2 c は、径方向の外側に向かうに従い、上方に向けて延びている。係止凸部 2 2 の外面 2 2 d は、視認リング 1 7 の外周面より径方向の内側で、かつ内周面より径方向の外側に位置している。

なお、係止凸部 2 2 の表面は、外面 2 2 d を有さなくてもよい。係止凸部 2 2 の外面 2 2 d は、視認リング 1 7 の外周面に対して、径方向の同じ位置に位置してもよいし、径方向の外側に位置してもよい。

#### 【0032】

係止凸部 2 2 の上下方向の大きさは、係止凹部 2 1 の上下方向の大きさより小さくなっている。係止凸部 2 2 の周方向の大きさは、係止凹部 2 1 の周方向の大きさより小さくなっている。

#### 【0033】

係止凸部 2 2 は、係止凹部 2 1 の内側において、係止凹部 2 1 の上面 2 1 b より下方に位置している。

図示の例では、係止凸部 2 2 は、係止凹部 2 1 の内側における下端部に位置している。係止凸部 2 2 の上面 2 2 a は、係止凹部 2 1 における上下方向の中央部より下方に位置している。係止凸部 2 2 の上面 2 2 a と、係止凹部 2 1 の上面 2 1 b と、の間の上下方向の隙間は、係止凸部 2 2 の上下方向の大きさより広くなっている。

なお、係止凸部 2 2 は、係止凹部 2 1 の内側における下端部より上方に位置してもよい。係止凸部 2 2 の上面 2 2 a と、係止凹部 2 1 の上面 2 1 b と、の間の上下方向の隙間を、係止凸部 2 2 の上下方向の大きさ以下としてもよい。係止凸部 2 2、および係止凹部 2 1 それぞれの上下方向の大きさを互いに同等にしてもよい。

#### 【0034】

図 2 に示されるように、係止凸部 2 2 は、係止凹部 2 1 の内側における周方向の中央部に位置している。係止凸部 2 2 の端面 2 2 b は、係止凹部 2 1 の端面 2 1 a から周方向に離れている。係止凸部 2 2 の端面 2 2 b と、係止凹部 2 1 の端面 2 1 a と、の間の周方向の隙間は、係止凸部 2 2 の周方向の大きさより狭くなっている。

なお、係止凸部 2 2 は、係止凹部 2 1 の内側において周方向の中央部から周方向にずれた位置に配置されてもよい。係止凸部 2 2 の端面 2 2 b と、係止凹部 2 1 の端面 2 1 a と、の間の周方向の隙間を、係止凸部 2 2 の周方向の大きさ以上としてもよい。係止凸部 2 2、および係止凹部 2 1 それぞれの周方向の大きさを互いに同等にしてもよい。

#### 【0035】

以上説明したように、本実施形態によるキャップ 1 によれば、キャップ本体 1 1 に対してねじ筒 1 8 が緩む周方向の緩み側に、蓋体 1 3 を移動したときに、係止凸部 2 2 が、係

10

20

30

40

50

止凹部 2 1 の端面 2 1 a に当接するので、蓋体 1 3 に加えた周方向の力が、係止凸部 2 2 、および係止凹部 2 1 の内面を介して視認リング 1 7 に伝わることで、視認リング 1 7 と固定筒 1 5 とを連結している第 1 弱化部 1 6 が周方向に引張られて破断することとなり、視認リング 1 7 が固定筒 1 5 に対して分離される。

これにより、未開封状態と比べて、視認リング 1 7 が下方に位置するか、除去されることとなり、未開封状態と、蓋体 1 3 をキャップ本体 1 1 から取り外した後、再度、蓋体 1 3 をキャップ本体 1 1 に装着した状態（以下、リキャップ状態という）と、を外観で容易に見分けることが可能になり、未開封状態であるか否かを確実に判別することができる。

【0036】

係止凹部 2 1 が、視認リング 1 7 に形成された径方向に貫く貫通孔となっているので、係止凹部 2 1 を有する視認リング 1 7 を容易に形成することができる。

10

図 2 に示されるように、係止凹部 2 1 の上面 2 1 b が、係止凸部 2 2 の上面 2 2 a より上方に位置していて、第 1 弱化部 1 6 が破断され、図 4 に示されるように、視認リング 1 7 が固定筒 1 5 に対して下降したときに、係止凹部 2 1 の上面 2 1 b が、係止凸部 2 2 の上面 2 2 a に係止されるので、未開封状態と比べて、視認リング 1 7 が下方に位置するだけでなく、係止凹部 2 1 が係止凸部 2 2 に対して下降することとなり、リキャップ状態の外観を、未開封状態の外観と比べて確実に異ならせることができる。

【0037】

係止凹部 2 1 の上面 2 1 b が、係止凸部 2 2 の上面 2 2 a に係止可能に形成されているので、第 1 弱化部 1 6 が破断され、視認リング 1 7 が固定筒 1 5 に対して下降したときに、係止凹部 2 1 の上面 2 1 b が、係止凸部 2 2 の上面 2 2 a に係止されることとなり、視認リング 1 7 を脱落させず、係止凸部 2 2 に留めておくことができる。

20

【0038】

キャップ本体 1 1 が中栓 2 4 を備え、蓋体 1 3 が保持部 2 7 を備えるので、キャップ本体 1 1 に対してねじ筒 1 8 が緩む周方向の緩み側に、蓋体 1 3 を移動すると、中栓 2 4 も蓋体 1 3 と同様に移動させられて、第 2 弱化部 2 3 が破断され注出孔 1 4 が開放される。その後も、中栓 2 4 は、図 3 に示されるように、保持部 2 7 に保持された状態に保たれる。

このように、蓋体 1 3 をキャップ本体 1 1 から取り外すだけで、第 2 弱化部 2 3 が破断され注出孔 1 4 が開放されるので、未開封状態とリキャップ状態とを外観で容易に見分けることができる効果が顕著に奏功される。

30

【0039】

本発明は上記した実施の形態に限定されるものではなく、その趣旨を逸脱しない範囲で適宜変更可能である。

【0040】

蓋体 1 3 として、保持部 2 7、および音出し部 2 9 のうちの少なくとも一方を有しない構成を採用してもよい。例えば、保持部 2 7 に代えて、プルリング等を採用してもよい。

キャップ本体 1 1 の天壁部 1 2 の上面を、全域にわたって平坦に形成してもよい。

第 1 弱化部 1 6 の破断時に、係止凹部 2 1 の上面 2 1 b を、係止凸部 2 2 の上面 2 2 a に係止させず、視認リング 1 7 を除去してもよい。

係止凹部 2 1 を差込筒 1 9 の外周面に形成し、係止凸部 2 2 を視認リング 1 7 の内周面に形成してもよい。

40

【0041】

その他、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、上記した実施の形態における構成要素を周知の構成要素に置き換えることは適宜可能であり、また、上記した変形例を適宜組み合わせてもよい。

【符号の説明】

【0042】

1 キャップ

1 1 キャップ本体

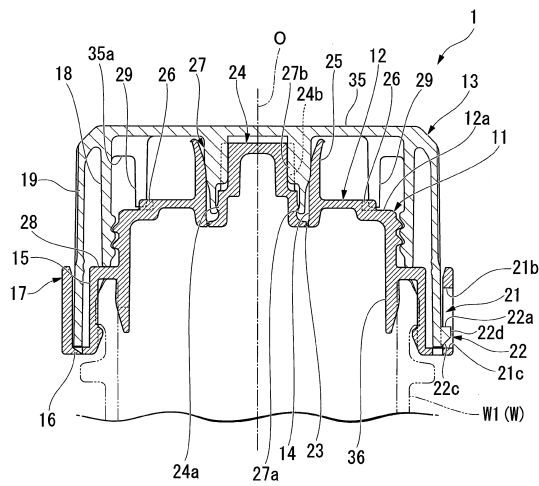
1 2 天壁部

50

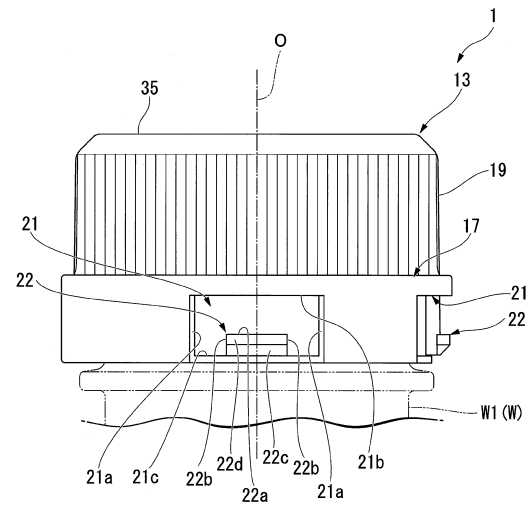
- 1 3 蓋体
- 1 4 注出孔
- 1 5 固定筒
- 1 6 第1弱化部
- 1 7 視認リング
- 1 8 ねじ筒
- 1 9 差込筒
- 2 1 係止凹部
- 2 1 a 係止凹部の端面
- 2 1 b 係止凹部の上面
- 2 2 係止凸部
- 2 2 a 係止凸部の上面
- 2 3 第2弱化部
- 2 4 中栓
- 2 7 保持部
- O キャップ軸
- W 容器本体
- W 1 口部

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

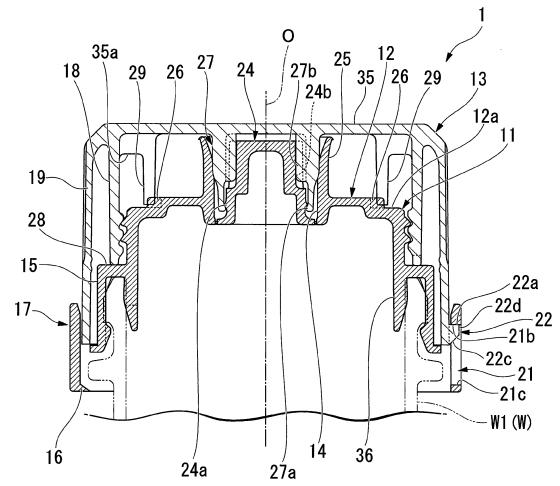
20

30

40

50

【図 4】



50

---

フロントページの続き

- (56)参考文献      特開 2018-002224 (JP, A)  
                    特開 2005-239206 (JP, A)  
                    特開 2015-163525 (JP, A)  
                    実開昭 63-049351 (JP, U)
- (58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)  
                    B 65 D   39 / 00 - 55 / 16